

歯痛がなおる佛さま

今坂柳二

おらの村にな、昔、殿様のお屋敷だつたちゅう茶畠がありまして…ん？ 知らんと？ ああ、やつぱりな。もう昔のこんだ、無理もねえが、一つ走りの処の話ですぞ。いいあんべえにカミさんは何処かへこじいてんから、遠慮はいらんよ。

いまは千坪ほどの畠になつてゐるが、道の向こつかわには殿様井戸ちゅう古井戸が残つてて、裏山あハケの藪つかさ。狐の穴つこがあつたり、王モンガーが枝から枝へ飛んだりしてゐる、まあ、そんな処が殿様のお屋敷だつた。

何だつて？ 前の話は面白いが前口上が長すぎるって言われるか。なるほど、分かりもうした。それじゃあそろそろ本論に入ることにするが、いいあんべえに鉄ビンが鳴り出しあつた。聞くも法薬、茶あ飲むも法薬じや。一ペ工やらかしたほうが口の滑りもええ。

殿様の名は、ツチヤ様じや。さてと、殿様ご夫婦に一人



今坂柳二画

息子がございましてな。これがまた甘いもんが大好物じや。昔のことで何ぼお坊っちゃんでも歯みがきなんぞいたしません。もう「お乳つ歯」のうちから軒並みの虫歯だつたとやら。テッポ玉にアソロ玉にウサギ玉、まだまだあります、キンツバにイマサカ餅。

「存じのように虫歯は夜になると暴れだします。お水をお口に含ませたくらいじやあ、五分も保ちゃあせん。若さま、私がさすつてあげましよう、だめならお揉みしましよう。痛い痛いの騒ぎに、庭番のクマキチがとんできて言いました。「歯痛ならおれにまかせる。お梅は提灯を探してこい。わしは若を背負つて浅間山に行くぞ。皆も知つてんべ、山の上のお墓にホツペを押された佛がおる。ありやあ子供らお水を、若さまにつけてあげれば、若の苦しみはたちどころに収まる。

それ、皆の衆、おらの背をおつべしてください。

それお梅、よく道を照らせ、夜露で裾が濡れるつくれえ、がまんしろやい。」

ツチヤの若様の歯痛はたちまち消えると共に、笛井の浅間山の觀音の噂は世に広まつた、とのこ

とであります。

いまさかりゆうじ

狭山市笛井在住。二十四歳から俳句に
関わつて、現在同人誌「つばさ」代表。
かたわら、昔はなしの採話採話を続け、
「龍じいの昔ばなし」以下十冊発行。

編集後記

新年早々の発行は、日程的に厳しく、大変でした。
芸術祭今回は大ホール公演が有料で文団連会員のみの出演。
私も出ますので、真剣に取り組みたいと考えます。

会報でも詳しく案内しますが、チケットの販売にも力を入れたいもの。

(高沢正夫)